

● 質問

1. 横浜市の山下埠頭へのカジノを含むIR誘致の是非について

(1)立憲民主党ホームページに掲載されている「基本政策」では、「ギャンブル依存症を拡大させるなどさまざまな社会コストが生じるカジノ解禁は認めません。」とされ、神奈川県連合のホームページに掲載されている「基本政策」には、同じ文章に加えて「特にIRの県内設置には反対します。」と書かれています。

横浜市は「現在は白紙」と強調していますが、山下埠頭へカジノを含むIR設置に動き出すのではないかと懸念が絶えません。

ご自身は山下埠頭へのカジノを含むIR設置の是非についてどのようにお考えですか？ 反対あるいは賛成する理由とともにお答えください。

【回答記入欄】

カジノを含むIRの設置については 反対

理由

ギャンブル依存症の拡大、反社会勢力の関与、マネーロンダリングの手段として使われる、子育て環境の悪化、横浜のイメージの悪化等が懸念される為。

(2)カジノを誘致することによる弊害（ギャンブル依存症の拡大、周辺地域の治安の悪化等）の懸念については、どのようにお考えですか？

【回答記入欄】

ギャンブル依存症の増加を止めることはできない。それは先例を見れば明らかだと思う。また、反社会勢力の関与やドラック等が入り込んでくることも決して止めることはできないと思う。これも先例を見れば明らかで治安は確実に悪化してしまうと考えられる。

2. 横浜市立中学校におけるハマ弁の存続・給食の導入の是非について

(1)現在、横浜市の公立中学校では給食は行われておらず、原則家庭からの弁当持参、但し希望者には「ハマ弁」や業者弁当（一部学校のみ）を有償で提供するという形になっています。しかし「ハマ弁」は美味しくない、制度が使いづらいなどと生徒・保護者の不満の声も多く、利用率は低迷しています。そうしたなかで、ハマ弁の改善あるいは廃止、更には完全給食を望む話しも多く聞かれます。

ご自身は給食を導入すべきとお考えでしょうか？ あるいは、現状維持でよいとお考え

でしょうか？

② 給食を導入すべき

② 現状維持（原則弁当＋ハマ弁）でよい

【回答記入欄】 [①]

↑①か②を記入

(2)①と答えた方にお聞きします。給食は次のいずれの方式がよいと考えますか？

ア 自校方式

イ 親子方式

ウ センター方式

【回答記入欄】 [エ]

エ ハマ弁の給食化

↑ア～エのいずれかを記入

その理由をお書きください

【回答記入欄】

・小学校と同じ自校方式が最も良いと思う。できたてのおいしい食事が食べられる。学校ごとに特色のあるメニューを提供することができるし、地産地消に貢献できる。災害発生など非常時には調理場として活用できる。など利点は多いがスペースの確保及び費用の点で実現までかなりの時間がかかるという課題がある。

早期に導入を図るためにはハマ弁の名称、容器、メニュー、等をリニューアルし、給食化することが最善の方法だと思う。また、ミルク給食をプラスすることも必要だと考える。

・どの方式にするのが最も良いのか、教育委員会にしっかりとしたデータを出させ検証の上最終的に決定する。

(3) (1)で②と答えた方にお聞きします。現状維持でよいとの理由をお書きください

【回答記入欄】

3. ヘイトスピーチ対策について

一部の人たちが公共施設での講演会や公園、駅前などの街頭宣伝において、特定の人種・民族などの少数者に対し、暴力や差別を煽ったり、またはおとしめたりする侮蔑的な言動を行う行為（ヘイトスピーチ）が問題になっていますが、それに対するご自身の見解と、横浜市としてどのような対策を行うことが必要と考えるかをお答えください。

【回答記入欄】

ヘイトスピーチ解消法は理念法なので根絶に向けて、さらなる取り組みが必要だと思いません。禁止と条例罰を課するなど条例づくりを行い、差別は絶対に許さないという姿勢を市

民に示すべきだと思う。

4. 訴えたい政策について

今年4月に予定されている横浜市議会議員選挙で、現在、ご自身が最も訴えたいと思っている政策や考え方などについて1つ挙げていただき、訴えたい内容をご記入ください。

訴えたい政策・考え方

【回答記入欄】

安心して子どもを産み、育てられる街、横浜

その内容

【回答記入欄】

街の発展や活力を維持伸長させていくためには、今までこの街を創ってくださった諸先輩の皆様には敬意をもって接するとともに、若い世代の活躍を欠くことはできないと思う。

安心して子どもを産み育てられる街は、保護者にとっても、そこで生まれ育った子どもたちにとっても住みやすく、ずっと暮らしていきたい街になると思う。

多感な中学生とともにすごしてきた経験と認可保育園を設立、運営に関わっている経験を生かし、保護者の気持ちや現場の声、子どもたちの気持ちに寄り添った政策を進めていきたい。

以上